

(トップページ: <http://mylibrary.maeda1.jp/>)

(ブログ「石油と中東」: https://blog.goo.ne.jp/maedatakayuki_1943)

マイライブラリー:0566

(注)本稿は 2022 年 9 月 5 日から 8 日まで 4 回に分けて「ブログ・石油と中東」に掲載したレポートをまとめたものです。

2022.9.10

前田 高行

国際石油企業5社、アラムコ及び ENEOS/出光興産の 2022 年 4-6 月期業績を比較する

はじめに

国際石油企業(ExxonMobil、Shell、bp、TotalEnergies 及び Chevron、以下 IOC)の4-6月期決算については既に概要を解説したが、本稿ではこれに加え世界最大の国営石油会社サウジアラムコ(以下アラムコ)及び日本国内1位、2位の石油企業 ENEOS ホールディングス(以下 ENEOS)と出光興産(以下 出光)の計8社の2022年4-6月期売上高、純利益、売上高利益率を比較する。

IOC、アラムコ及び日本企業2社は経営形態、事業内容等がそれぞれ大きく異なっており、単純比較することに問題があるとの指摘はあろうが、そのことを踏まえたうえで世界の石油企業の現状を理解する一助としていただければ幸いである。8社の決算書類における売上、純利益の表現形式も各社各様であるが、それらについては脚注で説明した。

なお通貨については日本企業2社の決算は円建てであるため、各社の決算付属資料に示されている為替レートで換算したドル建て表示で比較した。

8社の詳細な決算資料は下記の各社ホームページをご覧ください。

ExxonMobil:

https://corporate.exxonmobil.com/News/Newsroom/News-releases/2022/0729_ExxonMobil-announces-second-quarter-2022-results

Shell:

<https://www.shell.com/investors/results-and-reporting/quarterly-results/2022/q2-2022.html>

bp:

<https://www.bp.com/en/global/corporate/news-and-insights/press-releases/second-quarter-2022-results.html>

TotalEnergies:

<https://totalenergies.com/media/news/press-releases/totalenergies-second-quarter-and-first-h>

[alf-2022-results](#)

Chevron:

<https://www.chevron.com/newsroom/2022/q3/chevron-announces-2q-2022-results>

SaudiAramco:

<https://www.aramco.com/en/news-media/news/2022/aramco-announces-half-year-2022-results>

ENEOS ホールディングス:

<https://www.hd.eneos.co.jp/ir/library/statement/>

出光興産:

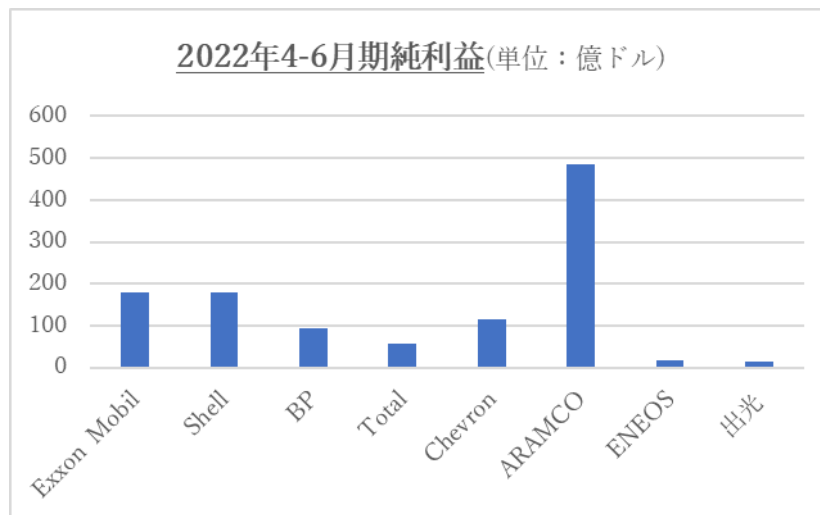
<https://www.idemitsu.com/jp/content/100040215.pdf>

* 末尾表 1-D-4-26「2022年4-6月期利益、売上高、同利益率一覧表」参照。

(圧倒的なアラムコの収益力、ExxonMobil、Shell の3倍、ENEOS の28倍！)

1. 純利益¹

(1) 当期利益



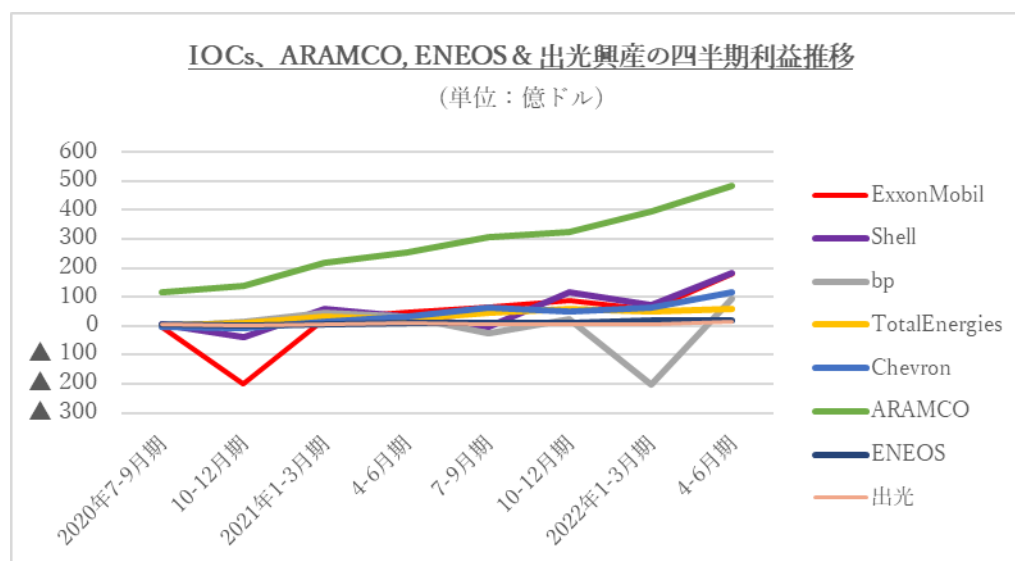
今期は全社が利益を計上したが、アラムコは突出しており、また国際石油企業も日本企業2社の3倍乃至10倍以上である。アラムコの利益は484億ドルに達し、ENEOS 或いは出光の売上高(次項参照)すら上回る規模である。因みに同社の今期四半期利益は全世界の上場企業トップと報道されている。

対する国際石油企業5社の中で利益が最も多いのは Shell 180億ドル、ExxonMobil179億ドルで、これに続くのは Chevron116億ドル、bp93億ドル、最も少ないのはTotalEnergiesの57億ドルである。一方、日系企業2社の利益はENEOSが17億ドル(邦貨2,214億円、換算率130円/ドル)、出光が14億ドル(邦貨1,793億円、換算率129.6円/ドル)である。

アラムコに比べると、Shell、ExxonMobilはその37%、TotalEnergiesは12%であり、ENEOS及び出光はアラムコの利益の4%弱にとどまっている。これをENEOSから見ると、アラムコは同社の28倍、ExxonMobilは10倍強であり、IOCの中で最も利益の少なかったTotalEnergiesでも日系2社の4倍の利益を計上している。彼我の利益格差は極めて大きい。

(増益一途でますます独走するアラムコ、低位ながら安定している日系2社！)

(2) 2020年7-9月期以降今期までの推移



ここではコロナ禍発生以前の2020年7-9月期から今期(2022年4-6月期)までの過去2年間、8四半期の利益の推移を追ってみる。

アラムコは2020年7-9月期に118億ドルの利益を計上しIOC、日系2社を大きく引き離していたが、その後も増益一途で今期(2020年4-6月期)は史上最高の484億ドルの利益を計上している。2年間で四半期利益は4倍強に膨れており、IOC、日系2社との格差は拡大している。

これに対し国際石油企業5社は、2020年下半期(7-9月期及び10-12月期)は押しなべて業績が振るわず、ExxonMobilは2期連続でマイナス、特に10-12月期には201億ドルの巨額の赤字を余儀なくされた。また Chevron も 2 期連続の赤字、Shell 及びbpはいずれかの四半期がマイナスであった。TotalEnergiesは損失こそ出さなかったものの利益額は極めて少なかった。

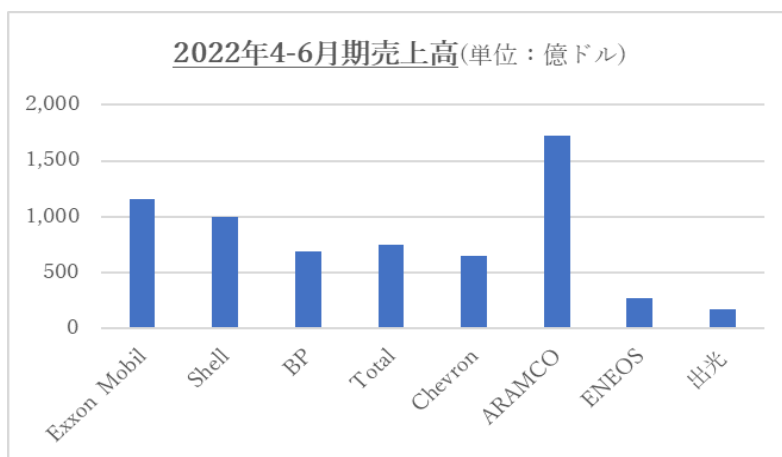
2021年はbpを除き各社はほぼ毎期50億ドル前後の利益を計上し、業績は回復傾向にある。2022年1-3月期はbpが200億ドルを超える大幅な赤字を計上、ExxonMobil、Shell、TotalEnergiesも前期比で利益が減少したが4-6月期には各社とも過去8四半期で最も高い水準の利益を計上している。

日系2社の利益の推移を見ると、両社とも赤字こそ免れたものの、利益水準は数億~十数億ドルと言う極めて低い水準にとどまっている。ENEOSが昨年後半から、また出光は今期に初めて10億ドルを超える利益を計上したが、アラムコは言うに及ばず、IOC各社とくらべても見劣りのする利益額である。

(ENEOS 売上高はアラムコの6分の1、ExxonMobil の4分の1！)

2. 売上高²

(1) 当期売上高

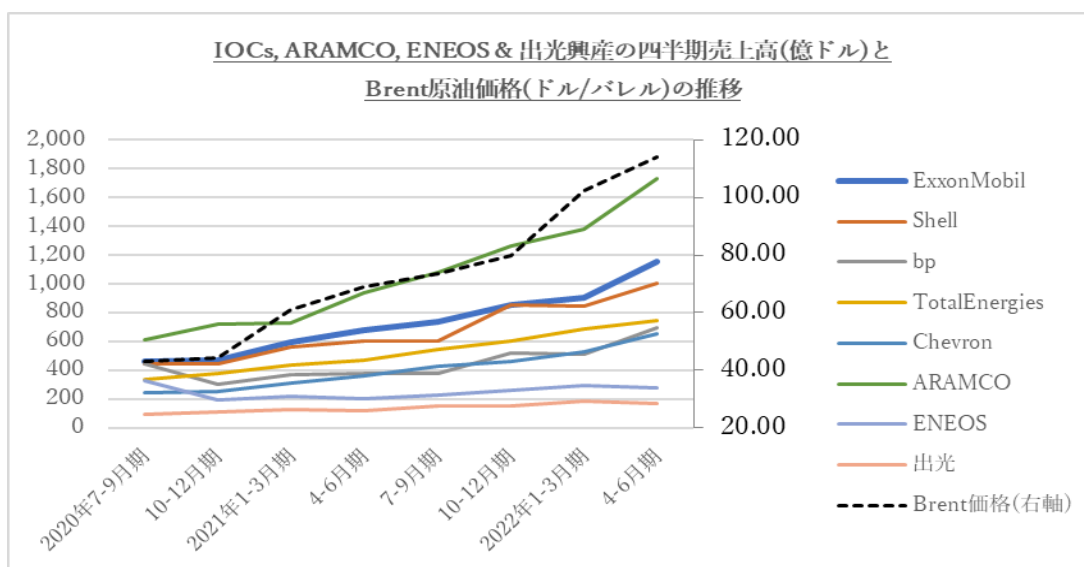


2022年4-6月期の ENEOS の売上高は3兆5,551億円、出光は2兆2,047億円であった。これを ENEOS は1ドル=130円、出光は1ドル=129.6円で換算すると(換算レートは各社の決算説明資料から引用、以下同様)、ENEOS は273億ドル、出光は170億ドルとなる。

これに対してアラムコの同期間の売上高は1,729億ドルであり、またIOC5社のそれは最も多いExxonMobilが1,157億ドル、ついでShell 1,001億ドル、TotalEnergies 748億ドル、bp 695億ドル、Chevron 654億ドルである。ENEOS はアラムコの6分の1、ExxonMobil の4分の1である。出光は比較した中では売上高が最も少なく、アラムコの1割、ExxonMobil の7分の1である。

(原油価格との相関関係が濃いアラムコとIOC各社、伸びが小さい日系2社！)

(2) 2020年7-9月期以降今期までの推移



2020年7-9月期から今期(2022年4-6月期)までの売上高の推移を見ると、アラムコがIOC5社及び日系2社を大きく引き離しトップを続けている。2020年7-9月期の売上高は610億ドルのアラムコを筆頭に、ExxonMobil、Shell及びbpが400億ドル台で続き、TotalEnergies331億ドル、Chevronは5社で最も少ない240億ドルであった。これに対して日系2社は ENEOS 329億ドル、出光97億ドルであり、ENEOSの売上高はChevronを上回りTotalEnergiesと肩を並べる規模であった。

続く2020年10-12月期はbp、ENEOSが前期を下回ったほか他社も横ばい状態であった。しかし2021年に入るとアラムコ及びIOC5社の売上は急伸し、例えばExxonMobilの2021年以降の四半期毎の売上高は591億ドル→677億ドル→738億ドル→850億ドル→905億ドル→1,1

57億ドルにアップ、2年間で2.5倍に膨張している。他のIOC各社もほぼ同様の傾向で、Chevron 2.7倍、Shell, TotalEnergies 2.3倍など軒並み2倍を超えている(bpのみが1.6倍)。

これらIOCを上回る伸びを示しているのがアラムコであり、2020年7-9月期に610億ドルであった売り上げは、1年後に1千億ドルを突破、その後も右肩上がり売り上げを伸ばし今年4-6月期は2年前の2.8倍1,729億ドルに達している。

これに対してENEOSは過去2年間で2020年7-9月期の売上が最大であり、今期は漸く8割強に回復した状況である。出光の今期売上高は170億ドルであり、2年前の1.8倍に達したが、アラムコ或いはIOC各社の伸びを下回っている。

売上高の変動に大きな影響を与えるのが原油価格であるが、代表的な油種であるBrent原油の各四半期の平均価格を見ると以下の通りであった(価格はドル/バレル)。

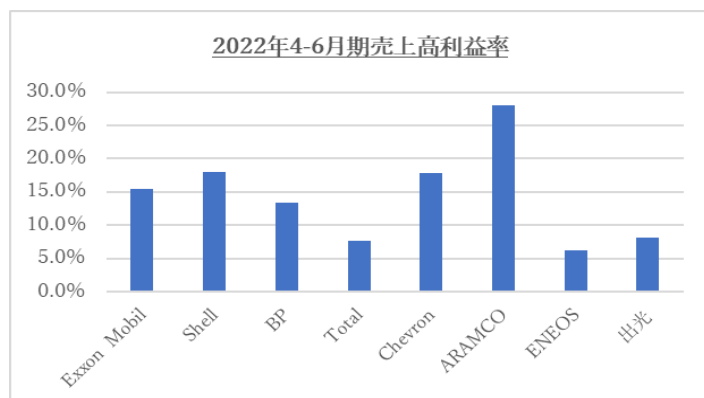
42.94ドル(‘20年7-9月期)→44.16ドル(‘20年10-12月期、前期比+2.8%)→61.12ドル(‘21年1-3月期、前期比+38.4%)→68.97ドル(‘21年4-6月期、前期比+12.8%)→73.51ドル(‘21年7-9月期、前期比+6.6%)→79.76ドル(‘21年10-12月期、前期比+8.5%)→102.23ドル(‘22年1-3月期、前期比+28.2%)→113.93ドル(‘22年4-6月期、前期比+11.4%)

これに対してExxonMobilの対前期比増収比率は、0.7%(‘20年10-12月期)→27.1%(‘21年1-3月期)→14.5%(‘21年4-6月期)→8.9%(‘21年7-9月期、前期比)→15.2%(‘21年10-12月期)→6.5%(‘22年1-3月期)→27.8%(‘22年4-6月期)と全期間を通じて売上高と原油価格との相関関係が極めて高い。この傾向はアラムコにも見られ、IOCとアラムコ5社は原油価格の値上がりに比例して売り上げもアップしたと考えられる。一方、日系2社にはそのような傾向が薄い。2社は原油のほぼ全量を外部から調達し、製品については規制当局の指導を受け価格を自由に決定できないため売上高と原油価格の相関関係は薄いようである。

(30%近い利益率を誇るアラムコ、IOCは軒並み二桁、ENEOS/出光は一桁！)

3. 売上高利益率

(1) 当期売上高利益率 (図 <http://menadatabase.maeda1.jp/2-D-5-23.pdf> 参照)

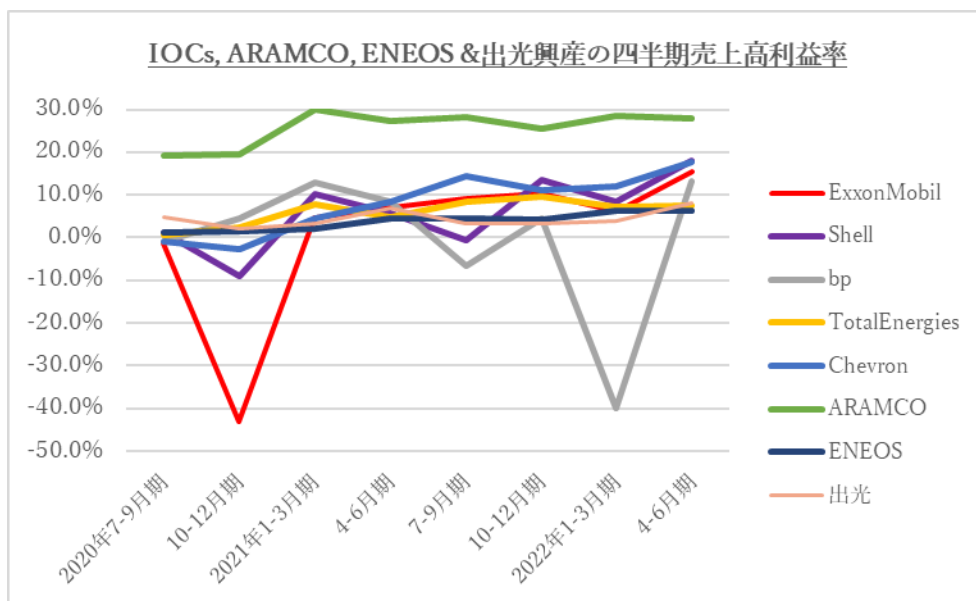


売上高利益率は全社がプラスであるが、アラムコ、IOC各社と日系2社の間には大きな格差がある。アラムコの利益率は28%であり、これに次ぐのはShell 18.0%、Chevron 17.8%、ExxonMobil 15.4%、BP 13.3%であり、TotalEnergiesはIOC5社の中で唯一一桁台の7.6%であった。これに対し日系企業はENEOS 6.2%、出光8.

1%であり、外国企業に比べ見劣りがする。

(2021年以降每期30%弱の利益率を続けるアラムコ、日系2社は低位安定！)

(2)2020年7-9月期以降今期までの推移



IOC5社の2020年7-9月期から今期(2022年4-6月期)までの売上高利益率の推移を見ると、2020年は ExxonMobil が10-12月期に▲43%の大幅な損失率を示すなど各社の業績は不安定であった。2021年には各社とも利益率が大幅に改善、Chevron は同年下期以降二桁台の安定した利益率を示している。その中でbpのみは相変わらず不安定な状態が続き、今年1-3月期は▲40%の損失率となっている。

アラムコは每期大きな利益率を確保しており、四半期ごとの推移は以下の通りであった。

19.3%(‘20年7-9月期)→19.5%(‘20年10-12月期)→29.9%(‘21年1-3月期)→27.3%(‘21年4-6月期)→28.1%(‘21年7-9月期)→25.6%(‘21年10-12月期)→28.6%(‘22年1-3月期)→28.0%(‘22年4-6月期)

これに対し日系2社の利益率は下記のごとく低い利益率にとどまったままである。

ENEOS:

1. 2%(‘20年7-9月期)→1.5%(‘20年10-12月期)→2.1%(‘21年1-3月期)→4.4%(‘21年4-6月期)→4.5%(‘21年7-9月期)→4.2%(‘21年10-12月期)→6.2%(‘22年1-3月期)→6.2%(‘22年4-6月期)

出光:

4.8%(‘20年7-9月期)→2.1%(‘20年10-12月期)→3.2%(‘21年1-3月期)→6.8%(‘21年4-6月期)→3.3%(‘21年7-9月期)→3.4%(‘21年10-12月期)→3.9%(‘22年1-3月期)

→8. 1%('22 年 4-6 月期)

以上

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

国際石油企業(IOCs), ARAMCO, JXTG & 出光興産の四半期業績比較(2022年4-6月)

(単位:百万ドル)

	純利益	売上高	売上高利益率	
ExxonMobil	17,850	115,681	15.4%	
Shell	18,040	100,059	18.0%	
BP	9,257	69,506	13.3%	
Total	5,692	74,774	7.6%	
Chevron	11,622	65,372	17.8%	
ARAMCO	48,439	172,900	28.0%	
ENEOS	1,703	27,347	6.2%	
出光	1,384	17,012	8.1%	
換算率(円/ドル)	ENEOS	130.0	130.0	-
	出光	129.6	129.6	-
百万円	ENEOS	221,355	3,555,106	-
	出光	179,321	2,204,695	-
\$/Bbls	Brent 原油		113.93	

¹ 「純利益」は各社資料から下記項目を抽出した。

ExxonMobil:Net income attributable to ExxonMobil (U.S. GAAP)

Shell:Incom/loss attributabel to shareholders

bp:Profit (loss) for the period; Attributable to BP shareholders

TotalEnergies:Netincome (TotalEnergies share)

Chevron:Net income

SaudiAramco:Net income by consolidated financial statement q3 interim report

ENEOS:親会社の所有者に帰属する四半期純利益、為替換算レートは決算説明資料による。

出光:親会社株主に帰属する四半期純利益、為替換算レートは決算説明資料による。

² 「売上高」は各社資料から下記項目を抽出した。

ExxonMobil:Total revenues and other income

Shell:Total revenue and other income

bp:Total revenue and other income

TotalEnergies:Sales

Chevron:Sales and other operating revenues

ENEOS:売上高

出光:売上高